

委員会だより

< 7月10日(日) 10名出席 >

- 1. 行事報告**
7/3 藤沢教会 50周年記念・第5地区教会巡礼団来訪
・午前のグループ：26名来訪。9時の子供と共に捧げるミサに共に与かる。ミサ後新集會室にて懇談会。
・午後のグループ：18名来訪。14時高野神父様指導で聖体訪問。その後、懇談会。
- 2. 行事予定**
要理の夏季学校：7月30～31日・一泊二日で、教会にて実施予定。(詳細は掲示)
- 3. 各委員、グループからの報告・提言・連絡**
 - ① 典礼グループ**
・7月3日、小グループリーダーによる委員会の第1回を開催。⇒ <メンバー> ミサ進行：森脇、香部屋：青柳、侍者：大宮、朗読：阿部(映)、聖歌・オルガン：大宮(絢)、生花：松下
・7月からミサ曲は1番を採用。
 - ② 修繕グループ**
・目下、窓ガラスと網戸の修理を依頼中。
・細かい部分の補修などは鶴田氏がして下さっている。
- 4. 審議事項**
次期委員とグループ活動について(2月委員会での審議に続き)
委員選出の問題点 ⇒ 現在の委員は在籍期間が長い、交替に際して立候補者が全くないのはもちろん、推薦してもなかなか引き受けてくれる人がいないという実態がある。これをふまえ、意見の交換を行なった。
- 5. その他**
 - ① 横浜教区召命錬成会参加者……石井大河、石井拓磨**
参加費の一部を補助
 - ② 平和旬間(8月6～15日)行事**
8月14日(日) 13:30～ 講演会、15:30～ 平和祈願ミサ 会場：藤沢教会
 - ③ 8月6日(土)17:00から 藤沢教会ガーデンパーティー**
 - ④ 「聖母の被昇天」ミサは、8月14日(日)のミサで行なう。**
 - ⑤ 9月23～25日 第31回カトリック正義と平和全国集会・横浜大会 於：横浜雙葉学園**
9月23日(金・祝)14時から 基調講演：「今こそ生かす平和憲法」奥平康弘氏
24日(土)10時～：現地学習と分科会
25日(日)9時～：分科会、12時～：派遣のミサ

マリア会だより

< 7月17日(日) 35名出席 >

- 1. 古着売り上げは7080円。**ご協力有難うございました。
- 2. 岩崎さんより：7/23 5時～8時半 聖母の園 盆踊り。**お手伝い募集。雨天の場合は24日
- 3. 横塚さんより：子供医療センターの図書充実の為、チケット購入で協力をお願いしたい。**⇒ ミュージカル「葉っぱのフレディー」8/2 県民ホール
- 4. 石井さんより：黙想会のお誘い9/24,25 詳細は掲示板**
- 5. 行事より：バザーの食堂メニューについて意見を求められ、カレー、おでん、フルーツポンチ、ケーキと紅茶、ぼた餅、おはぎ等があげられた。**これを参考に行事グループの中で話し合い、決定する。
- 6. マリア会の今後についての話し合い**
典礼や行事などのグループ化が進展しており、マリア

会の役割が明確でなくなってきたことから、検討事項は多々あるが(掃除、会計、連絡網など)来年にも解散することを検討してはどうかという役員の提案に対し、皆様のご意見は、
 ・行事などの活動がまだ上手く軌道に乗ってないのに早すぎる
 ・マリア会独自の活動をして欲しい。例えば福祉や文化の面等で
 ・グループに所属していない人たちの交流の場がなくなる
 ・グループの枠を越えたつながりの場が欲しい 等々
 これらの貴重なご意見を参考に、これからも時間をかけて話し合っていきたい。

【次回例会は9月4日(第一日曜日)当番はA地区】

ヨゼフ会だより

< 7月17日(日) 13名出席 >

- 『納涼会』の企画：神父様をお招きして、8月中に開催目標(マリア会とも調整)。(飲み物+おつまみ程度の簡単な形で夕方に実施する)
- 『庭の手入れ』：ヨゼフ会として、を8月14日ごミサ後行う。別途呼びかけ。
- 中和田教会ホームページの説明会：ミサ終了後お聖堂にて開催する(15分程度)。9月委員会に諮る。
- ヨゼフ会運営指針の具体化に関する議論(継続議論)：
 - ◆今回は、『経験の蓄積⇒世代を越えた継承』の議論から発展して、7/17ミサで渡邊神父様が引用された信徒の声：『昔の教会は「神の存在」を感じた。今の教会は(活動は活発だが)それを感じない。これは何故か?』を軸にいろいろ話し合いました。そのいくつかをご紹介します。
 - ◆(良い悪いは別にして)昔と今とでは、いったい何が違うのか?
 - ・昔と今の境目は、やはり第二バチカン公会議
 - ・ごミサの形からして違う---ラテン語/日本語、神父様の立たれる向き、
 - ・昔はトップダウン的(上意下達を徹底)、今はボトムアップ的(皆でやろう)の主旨)
 - ・昔は「戒め」先行、今は「赦し」先行
 - ◆教会自体の構造が変わりつつある。カトリック学校でも、運営の中に修道者が一人しかいない例もあるし、修道会自体も人数が減りつつある。
 - ◆是非、鈴木神父様から「横浜教区全体がどの方向で動いているのか」について纏めてお話を伺いたい。

お知らせ

帰天 永遠の安息をお祈りします

7月22日 テレジア 久留 恭子様
7月22日 マリア 岩永 シゲ様

その他

- ① 8月12日(金)午後2時からのミサはありません。
- ② 「聖母の被昇天」のミサは、8月14日(日)のミサで行なわれます。(15日はありません)
- ③ 8月は渡邊神父様の聖書の勉強会はおやすみです。
- ④ 8月の委員会、ヨゼフ会、マリア会はありません。
- ⑤ バザーのための作品作りの仕事を8月も第2と第3木曜日に行ないます。
- ⑥ その他行事については、委員会だよりをご覧ください。



広報 なかわだ
第315号

8月の予定

聖母被昇天ミサ 8月14日
委員会、ヨゼフ会、マリア会 休会



2005年8月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141

http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/

平成17年8月7日



お 話

鈴木 勁介 神父



静岡に『かなの家』という知的障がいをもつ人といわゆる健常者が共同生活をしている家があります。そこの二人がバザーのお知らせをした時の話をしましょう。

ご存知かもしれませんが、『かなの家』は「ラルシュ共同体運動」を実践しているところで、この運動は世界のいろいろな国で行なわれています。その一つであるアメリカのある共同体に属することになったヘンリー・ナーウエン神父の話が、私には忘れられないけれど、もう一つピンとこないでいたのです。

ナーウエン師は著名な神学者で、その日もまた講演を頼まれて、ワシントンに知的障がいをもつ同伴者と一緒に出かけたのです。その日の同伴者はとてもご機嫌で、一緒に講演をするというので、少し心配しながらも、二人で壇上に上がりました。ナーウエン師が話を始めると、話の途中で「え、それは〇〇さんのことです」とか「ヘンリー神父さんは……」といった具合に、口をはさんできました。そして、聴衆は、不思議にも、それを喜んで聴いていました。

この日のことをナーウエン師は後でふりかえって、「私はいままで数々の講演を独りで行ない、よい評価を受けてきたが、何年も先まで覚えていてくれる人はほとんどいないであろう。しかし、今日聴衆が受け止めたことは、何年も忘れないに違いないと思った」と書きとめたのです。

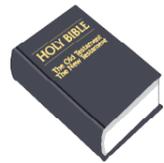
この「聴衆が忘れないだろう」というところが、私にはピンとこなかったのです。それが、あのバザーのお知らせを聞いていて、「なるほど、こういうことか」と少し分かった気がしたのです。

「心に届くメッセージ」などと言いますが、私がしてきたことの大半は、わざわざ心に届かないように色々なものでくるんで話したり、人に重荷を背負わせたりだったように思います。稀に、「神父さんがいつかこんなことを言っていたでしょう」と言ってくださる方がありますが、まず私が覚えていることはありません。自分で覚えていることは、自分がよいとか正しいとか、優れているとか思っていることですが、そういうことは、ほとんど人の心には届いていないのではないのでしょうか。

「幼な子のようにならねば……」という主イエスのことばは、こんなところにも当てはまるのでしょうか。あの知的障がいをもった青年たちにはかなわないまでも、「無心に、温かく、控え目に、一日二杯の酒を飲み、さかなは特にこだわらず、マイクが来たなら微笑んで、十八番を一つ歌うだけ……」と河島英五風に生きていきたいと願っています。

ミサ当番表 (2005年8～9月)

月/日	第一朗読者	第二朗読者	共同祈願	奉納	オルガン	侍者	先唱者	準備係
8/7	石井(大)	石原(知)	美底(さ)	森脇(知)・石原(未)	森田	美底(か)・石井(ま)	清水	井上・大原
8/14	富田	上野		富田・宮崎	岩瀬	石原(知)・森脇(留)	竹内	大宮・松尾
8/21	伊丹	松田	大宮	伊丹・清水	保科	石井(大)・石井(つ)	小野寺	下村・松下
8/28	上野	小野		上野・七浦	森田	森脇(ま)・美底(か)	東原	中谷・青柳
9/4	森脇(留)				美底		福島	井上・大原
9/11	鶴田	町田	鶴田	鶴田・中村(幸)	岩瀬		森脇(留)	大宮・松尾
9/18	清水	山本	石井(悠)	清水・町田	保科		大宮	下村・松下
9/25	井上	楠田	井上	井上・横塚	森田		富田	中谷・青柳
10/2					美底			井上・大原



横浜教区女性の会『パスカ』を振り返って

阿部 映子

今年、横浜教区婦人同志会が50周年を迎えるとともに、名称を標記のように変更いたしました。前々から、古めかしい、堅すぎるという理由で改名を望む方々が多く、50周年を機に、総会において承認され、決定しました。

"パスカ"とは、過越し・復活の意味があり、

- ① キリストが私たちを神の栄光にあずからせるために定めてくださった最後の晩餐、キリストの体であるパンをいただく儀式ミサを大切にしましょう。
- ② 神と人との関係、人と人との関係をつくりだすために交わり、私たち女性が一つになって神の国へ近づくよう活動しよう。

という会です。

丁度今から10年前、生れてから半世紀以上が過ぎ、残り少なくなった人生となり、神と出会った信仰をいっばん大切にしようと考えていました。狭い範囲での活動はしていましたが、何か物足りなさを感じていました。そんな矢先、名簿上だけの会員でしかなかった婦人同志会の役員の方から「信徒養成チームのスタッフを探しているけど、やる気ない？」とお誘いがあり、自分に出来ることならとお引き受けしました。

6人のスタッフと役員で、当時の教皇ヨハネ・パウロⅡ世の書簡『紀元2000年の到来』を軸とし、1995年から準備の勉強会が始まりました。年に3回の講演会と黙想会のための講師や指導司祭をお願いするために、あちこち伺いました。池長大司教様、岡田大司教様、野村司教様、幸田補佐司教様（当時、西千葉教会司祭）等々。また、神奈川だけでなく、静岡、山梨の教会への巡礼もいたしました。忙しい中にも充実した月日でしたが、また同時に、多くの方々との交わりによって、自分があまりにも神様との関わりに小さいことに気づかされる結果にもなりました。もっと信仰を深めたい、関わりを持ちたいという思いで、2000年から役員として残り、活動することになりました。梅村司教様の"交わりとしての教会"を取り上げ、"交わりの霊性"をテーマに学習することになりました。

当時の濱尾司教様の「交わりで大事なものは、自分を見失わず、神が守ってくださることを忘れないこと」、佐久間神父様（世田谷教会）の「三位一体の中に生きることは、キリストを頭にして一つにあつまること」、幸田神父様の「自分の人生に福音宣教があると言えたらすばらしい」、細井神父様（甲府教会）の「共に生きるやさしさを持つこと。新しい出会いによって神との愛が生れる。これが交わり」などといったお言葉が心に残っています。

イエズス様は私たちの生活の中心であり、私たちが目指すのは、イエズス様と共に歩む旅なのだと思います。教会の変化が徐々に進んでいることに驚くとともに、それを素直に受けとめて、前向きに考えた10年間でした。

2003年頃、横浜教区信徒カテキスタ会の役員の方から入会のお誘いを受けました。一年間考えた末、まだカトリックの教えを知らない方々の手助けになればと、グルニエ神父様の推薦をいただき入会し、2年目を迎えました。また、その準備として、一年間で聖書を通読マラソンしようという"和善聖書の会"（松田清四郎神父様）にも参加しました。去年の9月から読み始めて、残り100頁になりました。旧約を読むのは大変でした。神と自分との約束を守ること。自分自身との闘いに負けないこと。忍耐、ただ忍耐でした。

"ローマの信徒への手紙 5章3～5節"にある「私たちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。希望は私たちが欺くことはありません。私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちに注がれるからです。」の箇所を読んだとき、神に守られることを理解することができました。もちろん、旧約の内容はほとんど覚えていません。しかし、いざ新約になると、旧約のことがばが登場し、その度に読み直すはめになりました。モーセ五書、ヨブ記、イザヤ書はゆっくりと読み直したいと思っています。

もし"和善聖書"をやってみたい方がありましたら、是非お申し出ください。松田清四郎神父様のお言葉によれば「意味を考えずに、飛ばさずに、すべて読んでみましょう」ということですから、どなたでも出来ます。

神に与えられた、すべてよいものを心に受け入れ、そして、相手も受け入れることができるようになれば、自分の心も楽になるのではないのでしょうか。出来ても、出来なくても、聖霊の働きを感じながら、前へ進んでいきたいと思っています。



夏季学校 感想文

7月30、31日に一泊二日で行なわれた要理の夏季学校参加の感想文です。

石井 築雄 (小3)

ぼくが合宿でいっばん楽しかったことは、花火やドッチボールや化学の実験、パン作り、カレー作りなどで、むしろぜんぶおもしろかったです。

ミサの先唱もだいたいうまくできてよかったです。それと、ミサ中にパン作りで作ったパンをもらうとき、少し大きくて、ちょっと口から出ちゃいました。

神学生の宮ちゃん（宮内神学生）も来ました。お兄ちゃん（石井拓真）も知っていたようです。

森脇まみちゃんが来週手術でざんねんだけど、元気になってもどってきてほしいです。

夏休みの合宿、今年はずれられない二日間だったと思います。



初 Summer キャンプ

星川 麻理 (中2)

私は、この中和田教会に来たのは、これで二回目です。その二回目で、この夏季合宿に来させていただきました。最初は、小さい子どもたちと何を話せばよいか、少しまよいました。時間が経つにつれて、だんだん話せるようになりました。小4の子どもがいっばんたのもしかったなあ〜♪

夜は花火や祭りに行かせていただきました。花火は、みんなでやったので、とても楽しかったです。祭りではみんなで鬼ごっこもしたっけ？

私は早く寝たのでよくわからなかったけど、みんなは12時くらいまで話していたということ、次ぎの朝聞いてびっくりしました。

ミサでの朗読は失敗してしまっただけど、全体的に上手くできたと思います。

この夏季合宿を企画してくださった方々、ほんとうにありがとうございました。お手伝いに来たつもりが、あまり手伝えなくてごめんなさい。そして、みなさまおつかれさまでした。

石原 未来 (小4)

私が合宿で楽しかったことは、パン作りや花火です。パン作りは、はじめから自分の手で作りました。最後にちょっと食べてみたら、すごくおいしかったです。花火は、暗い中でやって、すごくきれいでした。

あと、休れい時間には、かおりちゃん、まりなちゃん、ちかちゃん和我でバレーボールをしました。いっばん長く続いたのは7回でした。楽しかったです。



藤沢教会企画 沖縄スタディーツアーに参加して

美底 沙織

私は、このツアーで、いろいろなことを聞いたり見たりしました。

一日目は、「ひめゆりの塔」や「糸数壕」を見に行きました。「ひめゆりの塔平和祈念資料館」では、自分が実際にそこにいるような気持ちになって、とてもこわくなりました。一日目で、戦争はあってはいけないと、あらためて思いました。

二日目は、久高島の島内遺跡を見学しました。久高島に昔からある文化について聞いて、もっと知りたいなと思いました。

三日目は、嘉手名基地を遠望しました。とても大きい基地に圧倒されながら、早く基地がなくなってほしいと思いました。

四日目は、首里城を見学しました。沖縄は、昔、いろいろな国とつながりを持ち、それも深いつながりもっていたということを知って、自分が思っていた沖縄と違う沖縄がみえました。

私は、このツアーでいろいろなことを体験しました。これから、私たちがツアーで体験したことを伝えて、平和な世界が続くようにしたいです。